暮雨の滝

新緑（5月）

紅葉（11月上旬）

暮雨の滝は、春から夏にかけて新緑の景色が広がり、秋には木々が赤や黄色に色づき、冬は氷の世界になるなど違う景色とり、一年を通して楽しめる場所になっています。

長時間の登山が苦手な方や親子で登山に挑戦したいと思っている人は、きれいな自然の景色に癒されながら、歩いてみてはいかがでしょうか。

春夏秋冬

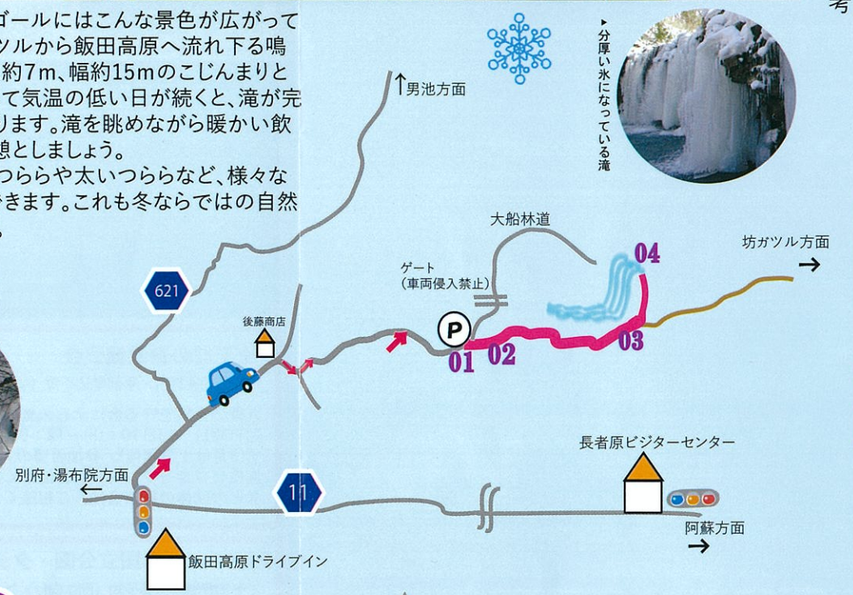
04 暮雨の滝 1040m

分岐から急な坂を下ったゴールにはこんな景色が広がっています!!暮雨の滝は坊ガツルから飯田高原へ流れ下る鳴子川にかかります。落差は約7m、幅約15mのこじんまりとした滝です。雪が沢山降って気温の低い日が続くと、滝が完全に凍ってしまうこともあります。滝を眺めながら暖かい飲み物を片手にしばしの休憩としましょう。

滝の付近は長く伸びたつららや太いつららなど、様々な形をした氷をみることができます。これも冬ならではの自然が造り出す芸術品ですね。

▸分厚い氷になっている滝

▸雪で覆われた石



～冬の登山の心得～

持ち物編

コンパス
雪が積もると登山道がわかりにくいです。
そんなとき方向を確認するためにコンパスがあると便利です。

登山地図
コンパスと同様に地図は必須アイテムです。
最近は携帯のアプリ等で場所の確認をすることができますが、充電が切れたり、電波が入らない場合もあります。その時に自分が今どのあたりにいるのか正確に把握するためにも紙の地図は必ず持ちましょう。

軽アイゼン
軽アイゼンは４本～６本の滑り止めの爪のことです。登山靴の裏に付けます。
積雪が少なくても、踏み固められた道は凍っていることがあります。初めて装着して歩く場合、慣れるまで注意が必要ですが、アイゼンを付けることで歩きやすくなります。

※その他：スパッツ、厚手の手袋、防寒着、暖かい飲み物など…。

行動編

①登山届を出すことを忘れずに。
慣れた場所だからと登山届を出さないと、もしも！の時に困ります。必ず書いてから入山しましょう。スマホからも登山届の記入・提出は可能です。

②余裕を持った計画を。
冬は日が暮れるのが早い時期です。下山は日没よりも余裕を持った時間に降りれるように計画を立てましょう。

③天候が悪いときは無理をしない。
山の天気は変わりやすいです。1日晴れる予報でも急に天気が崩れることもあります。
そんな時は無理せず早めに引き返すことも必要です。

冬の山をゆっくり歩いてみよう！
片道約1時間

吉部登山口（よしぶ）～暮雨の滝（くらさめ）

940m　1040m

冬のくじゅう連山は雪や霧氷に覆われて銀世界となります。1,700m級の山々が連なるこの地域の特徴とも言えます。

冬の登山は夏や秋の時期とは持ち物や装備も変わってきます。またしっかりと防寒対策をしておかないと、強い風が吹いたりすることもあります。初めて行こうと思う人は身構えてしまうかもしれませんが、しっかりと準備をすれば楽しめるコースがくじゅうにはあります。その1つが吉部登山口から坊ガツルへ行く途中にある『暮雨の滝』への登山コースです。

今回のお便りでは、登山をしながら冬だからこそみられる、くじゅうの美しい景色を紹介します！くじゅうで初めての冬登山に踏み出す参考にしてください。

01 吉部登山口 940m

登山口の手前に約100台収容できる有料の駐車場があります。駐車場の簡易トイレでトイレを済ませるか、携帯トイレを準備して山に入りましょう。また、入り口には登山届ポストもあるので、記入することも忘れずに！
準備が整ったらゆっくり歩き始めましょう。

02 最初の登りを超えて

歩き始めると、最初は急な登りがあります。その後は比較的なだらかな道が続きます。最初の登りはザクザクと雪の中を踏みしめる音を聞きながら、歩きましょう。冬はすれ違う登山者の方が少ないですが、澄んだ空気の中で自然を体感できますよ。

03 標識を確認して

冬の登山は雪が積もっているので登山道がわかりにくくなります。
道標や踏み跡を見失わないようにこまめに地図などで位置を確認することが大切です。
暮雨の滝へは左の写真の道標が目印となります。
見過ごさないようにしましょう！